



医療法人社団げんき会 あゆみクリニック院長の藤川万規子氏は、医師としての日々の仕事と母親としての子育てに追われる中で、長男を東邦大学医学部に合格、次男を東京医科大学に現役合格、三男を順天堂大学医学部に現役合格させた。多くの親から子育てや医学部受験のアドバイスを求められ、その子育て体験を著書としても出版されています。この対談では、長男の藤川鳳声さんの医学部受験を振り返って頂きました。

――医師として、母親として、3人兄弟を全員医学部に合格させる。――
最も大切なことは、干渉し過ぎず、見放さず、本人が受験に取り組む姿勢を保てるように、しっかりと見守ってあげることだと思っています。

母親の仕事を見て育った子どもたち

田村 藤川さんは、3人の息子さん全員を医学部に入学させておられます。また、お子様の子育てと医学部受験の体験を、それぞれ著書として出版もされております。

3人のお子様を全員医学部に入学させるということは大変なことだと思います。

お子様にはどのような教育をなされたのでしょうか。

藤川氏 有難うございます。でも私は、子供たちが小さい頃から、将来は医師になって欲しいとか、そのために勉強をしろと言ったことは一切ありませんでした。

兄弟3人が自ら「医師になりたい」と決めて挑戦した結果でした。

田村 鳳声さんは、医学部を目指した動機とは、お母さまが医師だったということ、そのお母さまを見ていて医師はやりがいのある仕事だと思ったから、医学部を目指したと言

われていました。

藤川氏 私の父親は開業医でした。子どものころから褒められて伸び伸びと育てられました。私も父から医師になつて欲しいと言われたことはありませんでした。

父は常日頃、子供の前では、医者の仕事はやりがいがある仕事だと話していて、いつも楽しく仕事をしています。そんな姿を見ていて、子どものころから父を尊敬していた私は、将来は医師を目指したいと思うようになりました。

ですから私も子供達にはそれぞれの将来は自分で選ばせるように考えていました。

田村 親御様が自らの仕事に対する姿勢や考え、その仕事ぶりをお子様に見せるということはとても大切なことですね。お子様にとって一番大きな動機付けになると思います。

藤川氏 私もそのように思います。

医学部に進んだ現在も、3人の子供達には、将来は私の後を継いで欲しいとも言っていない。それぞれが自分